Web 会報 塩原 VoL 49

塩カン、連覇を逃す。菊地選手はベスグロ（C クラス）―県クラブ対抗―

県内のトップアマが所属クラブの名誉をかけて争う、団体戦の第 7 回県クラブ対抗競技大会は 27 日、那須陽光 GC（那須町、18 ホール）に 33 クラブが参加して開催された。矢板 CC の 4 連覇のあと、昨年は塩カンが覇権を握り、今年は連覇がかかっていた。

結果は鹿沼プレミアが 382 で優勝、塩カンは 386 で準優勝、連覇はならなかった。

出場クラブは A クラス（1956 年 1231 日生まれまで）、B 同（1966 年 12 月 31 日生まれまで）、C 同（20 歳以上）各 2 人でチームを編成、18 ホールのストロークプレーで上位 5 人の合

計スコアで争った。塩カンチームは A クラス（鈴木英利選手・中島正選手）、B 同（中井和彦選手・前田智選手）C 同（菊地諭史選手・熊田雄大選手）の布陣で臨んだ。前田選手のスコアを除いた 5 人の合計が 386 となり、鹿沼プレミアに 4 打及ばず連覇に届かなかった。3 位は芳賀 CC393、4 位矢板 CC394、5 位那須小川 GC395、6 位は宇都宮ガーデン 396 だった。

各クラスの表彰も行われ、C クラスで菊地諭史選手が 71 でクラスベスグロに輝いた。なお、メンバーの個人成績は、菊地選手 71,熊田選手 76,中井選手 78,鈴木選手 80,中島選手 81,前田選手 90 だった。









大島氏に栄冠。― 理事長杯 ―

今年度の理事長杯争奪競技は９月27日に男女36人が参加して開かれた。その結果、大島義彰氏が113(H9)の104で優勝した。

大島氏は最終ホール(中２番)でホールインワンを達成、優勝に花を添えた。



▽ 上位入賞者は次の通り。
②前田俊彦氏118(11,3) ③後藤正満氏117(9,6)
④佐藤義宏氏121(12,9) ⑤稲垣浩氏115(6,0)
⑥関家修氏121(10,7) (27ホール、カッコ内はハンデ)。

優勝した大島義彰氏から喜びの声が届いている。

４年ぶりの優勝を飾ることができ大変うれしいです。
メンバーに恵まれ最終ホールまで集中することが出来ました。
スタート南コースは気負い過ぎてスコアーがまとまらなかったものの、北コース、中コースは丁寧にまとめることが出来ました。これも同伴のメンバーに恵まれ緊張の中にもリラックスできたことが勝因です。また、中コース２番では人生初のホールインワンも達成することが出来ました。公式競技での出来事で、嬉しさも倍増です。これからも４大競技すべての頂点を目指して精進していきたいと考えています。
今後ともよろしくお願い致します。



高橋元相談役が逝去。享年83。塩原カントリークラブの〝生き字引〟



塩原カントリークラブの草創期から、クラブを運営する塩原ゴルフクラブに入社、半世紀近くをクラブの盛衰を見届け、クラブの〝生き字引〟とまで言われた高橋良一相談役（クラブ理事）が9月20日、83歳で生涯を閉じた。

高橋さんは栃木県内の別のゴルフ場に勤めていたが、栃木県で14番目にオープンした塩カンに、設計者の相山武夫氏に誘われて入社。以来、塩カン一筋に勤務、毎朝のクラブバックの用意から、スタートまでの準備から始まってほとんどのハウス業務を黙々とこなした。

平成31年に発行された50周年の記念誌「塩原」では、2ページ半にわたり、「折々の記」と題してその時代の出来事を書き残してくれた。今読み返すと、口数は少なかったがその〝生き字引〟ぶりが蘇ってくる。

高橋さんがそこに書き残した教訓をひとつ。

「昭和42年ころから平成4年頃にかけての6年間は、朝7時からプレーの2か月前の土、日、祝日の受付で仕事が始まった。フロントにある5本の電話が一斉に鳴り始める。15分もたつと予約台帳はいっぱいとなり打ち止めとなった。

当時は5分置きでスタートしたから、80組が15分で集まったことになる。どのゴルフ場もこんな状態だった。

そんな中で「27ホールとは中途半端。36ホールにしよう」という声が強まり、9ホール増設に向けて準備が始まった。許認可目前となった平成4年バブルがはじけて、景気が空回りを始めて、来場者も一気に減り始めた。

購入した土地の地価も一気に下がり、利用価値がなくなった。会員権の新規募集に応じてくれた人々に、大きな損害を与える結果になってしまった。」

高橋さんはバブル景気をはさんだ栄枯盛衰をこう書き残している。持って瞑すべしだ。









【エッセー】

Green Road ②　～緑に魅せられ 50 年～

落合 潤

ミナクルの開発

本州でのベントグラス（寒地型西洋芝）生産、販売という、前例のない挑戦から始まった私たちの歩み。それは同時に日本の過酷な夏を乗り切るための「芝の品種改良」と「管理データ蓄積」の歴史でもありました。長年培ってきた私たちの経験が、どのように塩原カントリークラブのグリーン管理へ活かされているかをお話します。

かつて日本のゴルフ場で主流だった往年の品種ペンクロスベントから時代は移り変わり、現在では耐暑性や病気への強さを高めた「最新世代」の品種が数多く登場しています。その品種改良の歴史の中で、私たちのターニングポイントとなったのが、独自のクリーピングベントグラス品種「ミナクル」の開発、登録でした。



【ﾍﾞﾝﾄｸﾞﾗｽのﾅｰｾﾘｰ（圃場の出荷風景）】

那須の圃場での実験、研究の成果

日本の夏の高温多湿に耐え、年中、美しい緑を保つための理想の芝を追い求め、那須の生産圃場で幾度も実験と研究を重ねた「ミナクル」。この品種改良は、日本の芝草研究における足跡となり、学会で受賞するという栄誉にも恵まれました。

私たちは単に海外から仕入れた種を育てるだけではなく、自ら日本の気候に最適な品種を生み出すほどの情熱と、多様な品種を自らの手で実際に育てて比較分析してきた「生きたデータ」を持っています。

「この品種は春の芽吹きが早いが、病害など夏の管理に繊細さが必要だ」

「ある品種は低刈りに強いが、地中の根の生育に特徴がある」

「ある品種は密度が高すぎてマット化し易く播種育成向きだが州蒔き、長期的な使用に課題もある」

小さな砲台に注がれるノウハウ

20×20。この半世紀にわたる膨大な比較経験の蓄積こそが、他には真似の出来ない那須ナーセリーの最大の財産であり、現在そのノウハウが惜しみなく注がれているのが、皆様がプレーされている塩原カントリークラブの 27 ホールです。

塩原カンの魅力であり最大の難所の「小さい砲台グリーン」は、一見、どれも同じような美しい緑に見えるかもしれません。しかし、ホールが位置する場所の日当たり、風の通り抜け方、さらに土壌の傾斜によって、必要とされる管理はミリ単位で異なります。

私たちは、蓄積された品種ごとの特性データを基に、「このホールのグリーンにはあの品種の強みを生かしたメンテナンスが最適」「この気象予報なら、あらかじめ水分バランスをこうシフトさせておこう」「エアレ



ーションや目土などの更新作業はこのタイミングがベストだろう」といった、先回りの管理を実施しております。



グリーンの管理作業



グリーンの更新作業（エアレーション）

ホールごとに管理方法を変え

ただマニュアル通りに芝を刈るだけではなく、品種の進化とホールの個性を掛け合わせるだけで、あの滑らでブレない「最高の一転（ボールロール）」を生み出しているのです。とくに、57年もの歴史が環境や土壌に変化をもたらした塩カンのコースはホールごとの個性にも管理方法を変化対応させる必要があるのです。

私たちが守り、育てているのは単なる植物としての芝生ではありません。ゴルファーの皆様がパターを握り、ラインを読み、自信をもって放った一打が美しい放物線を描いてカップへと吸い込まれる「あの感動の瞬間」そのものです。

今日も最高のコンデションで皆様をお迎えするために、私ども管理チームのグリーンキーパーや従業員たちは、科学的データと確かな職人の目を持って、今日も早朝のコースへと向かいます。







新企画スタート！

　前回、「中里プロの目 Q&A」が終了し、今月から新企画がスタートします。
新企画では、塩原温泉の観光施設や宿泊施設を紹介していきます。ゴルフ前日や翌日の観光に是非お役立て下さい。

【アグリパル塩原　～道の駅 湯の香 しおばら～】

◎プレーの前後やご家族とのお出かけに！
　塩カンでのゴルフを満喫したあとは、地元の美味と温かなおもてなしに触れてみませんか？ 塩原温泉郷の玄関口に位置する「アグリパル塩原（道の駅 湯の香しおばら）」は、ゴルファーの皆様の立ち寄りスポットとしても大変おすすめです。



★ 朝採れの新鮮野菜と特産品が勢ぞろい！
　「農産物直売所」には、塩原の豊かな自然と清らかな水が育んだ朝採れの新鮮野菜や季節の果物が並びます。お土産やご自宅用にはもちろん、ゴルフ帰りのショッピングにもぴったりです。また、地元ならではの加工品や特産品も多数取り揃えています。
　今の時期に特におすすめなのが「塩原高原大根」です。これから寒暖差が大きくなるにつれてもっと甘みが増してくると思われます。ぜひ一度味わってみてください！
　春になったら「かぶ」もおすすめですよ♪

★ 地元の素材を味わう食事処
　お腹が空いたら、塩原ブランドの食材や郷土の味覚を楽しめるお食事処へ。ドライブの休憩や、ご家族連れでのご旅行の際にも満足いただけるメニューをご用意しております。

住　所　：　栃木県那須塩原市関谷 1266-2（塩原温泉の玄関口・国道 400 号沿い）
公式HP　：　https://agripal-shiobara.com
時　間　：　ゴルフ場より車で約 6 分 🚙









編集後記

元相談役で文字通り塩原カントリーと半世紀を共にした、高橋良一さんが亡くなった。痩身でひょうひょうとした佇まいに、口数は少なかったが、塩カンに関することで、聞いて答えがなかったことはほとんどない。松食い虫のせいで松が枯れ始めたころ、コース内の松の本数を聞いたら、オウム返しに「800本」ときた。「数えたことがあった」という。コース近くの別荘から、早朝、愛犬のゴールデンを連れて、クラブハウスに散歩に来ると、もう高橋さんがメンバーのバックを出していた。玄関前の左右の松が「太郎松」「次郎松」と呼ばれたと聞いたのも高橋さんからだった。合掌。

井上安正